

令和 5 年度

龍谷大学付属

平安高等学校入学試験問題

国語

解答上の注意

1. この問題用紙は、「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
2. 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。特に、解答用紙の受験科目欄にマークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、0点となります。
3. 「はじめ」の合図のあと、受験番号を書き、マークしてください。
4. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。たとえば、**10** と表示のある問いに対して、③を解答する場合は、次の(例)のように解答番号 10 の解答欄の 3 にマークしてください。(例)

解答 番号	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
10	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>3</u>	<u>4</u>	<u>5</u>	<u>6</u>	<u>7</u>	<u>8</u>	<u>9</u>	<u>0</u>
11	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>3</u>	<u>4</u>	<u>5</u>	<u>6</u>	<u>7</u>	<u>8</u>	<u>9</u>	<u>0</u>

5. 解答用紙は機械で読み取りますので、折り曲げたり汚したりしないでください。特に、訂正する場合には、消しゴムで丁寧に消してください。
6. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
7. 問題内容についての質問は受けません。(問題は持ち帰ることができません。)
8. 印刷が読みにくいときは手をあげて監督者を呼びなさい。
9. 「やめ」の合図があったら、解答用紙を表に向け、問題用紙を解答用紙の上に置いて、回収が終わるまで席を離れてはいけません。

(問題は持ち帰ることができません。)

受験番号

受験番号

問題は次のページから始まります。

国語

(解答番号

1

25

101

105

)

第1問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

東京の国際空港に降り立ち、素っ気ない空間を入国審査所に向かって歩きはじめる時、きまって感じることもある。空間は面白みがなく無機質だが、なんと素晴らしく掃除の行き届いた場所だろうか。床のタイルはどこもピカピカで、床の上で転げ回ってもさして服は汚れないのではないかと思うほど。カーペットを敷きつめた床も清潔だ。仮にシミがあっても、それを除去しようとする最善の努力を払った。※痕跡がある。おそらく掃除をする人は、仕事の終了時間が来ても、モップや掃除機をさっさと片付けたりしないで、切りのいいところまで仕事をやりおかせて帰るに違いない。この丁寧さが、他国から帰ってくると切実に感じられる。空港を出てクルマで高速道路を走りはじめてもこの感覚は持続する。田園風景を切り裂いて進む景観に、※高揚感はないが、路面は鏡のように滑らかで、クルマのエンジン音もきわめて静かだ。道路に沿って点灯する街路灯も、どれひとつとして消えていたりはない。

その※感慨はやがて都心部の夜景に吸い込まれていく。東京に近づくとつれ、夜景の緻密さに感覚が引き締まってくるようだ。ひとつひとつのどの灯りも、しっかりと確かに点灯しており、切れたり明滅したりはしていない。確実に揺るぎなく灯っている。そんな灯りが集合して高層ビルとなり、果てしない奥行きの中に連なっていて、※夥しい光の堆積をなす。

今の東京の夜景は、世界で一番美しいかもしれない。そういう感想を漏らすと、異論を唱える人は少なからずいる。夜景はやっぱりムンバイですか、香港のヴィクトリアピークから見下ろす夜景

にはかなわないなどと、Aうるさ方の意見は百出するけれども、同意してくれる人は案外と少ない。やはり、思い過ぎかもしれないと思いはじめていた矢先、都市をテーマとしたテレビのドキュメンタリー番組で、世界の空を飛び回るパイロットたちの言葉が紹介されていた。

「いま、上空から眺めて一番きれいな夜景は東京」

世界の夜景を機上から眺め続けている人々の意見だけに説得力がある。まさに B 我が意を得た 思いがした。世界広しといえども、東京ほど広大な広がりを持つ都市はないし、信頼感あるひとつひとつの灯りがそういう a キボ で集結しているわけである。 C このあたり に僕はひとつの確信を持つ。

掃除をする人も、工事をする人も、料理をする人も、灯りを管理する人も、すべて丁寧 ※ 篤実 に仕事をしている。あえて言葉にするなら「繊細」「丁寧」「緻密」「簡潔」。そんな価値観が根底にある。日本とはそういう国である。

これは海外では簡単に手に入らない価値観である。パリでも、ミラノでも、ロンドンでも、たとえば展覧会の会場ひとつ日本並みの完成度で作ろうとするなら、その骨折りは並大抵ではない。基本的に何かをよりよく丁寧にやろうという意識が希薄である。労働者は時間がくれば作業をやめる。効率や品質を向上させようという意欲よりもマイペースを貫く個の尊厳が仕事に優先するとも言える。それを前提に、管理する側がほどよく制御して仕事を進めていく。確かに、ヨーロッパには職人 ※ 気質 というものが存在するが、日常の掃除や、展示会場の設営などは、職人氣質の及ぶ範囲ではないのかもしれない。さらに言えば、こうした普通の環境を丁寧にしつらえる意識は作業をしている当人たちの問題のみならず、その環境を共有する一般の人々の意識のレベルにも繋がっているような気がする。特別な職人の領域だけに ※ 高邁 な意識を持ち込むのではなく、ありふれた日常空間の始末をきちんとすることや、それをひとつの

常識として社会全体で※暗黙裡に共有すること。D 美意識とはそのような文化のありようではないか。

ものづくりに必要な資源とはまさにこの「美意識」ではないかと僕は最近思いはじめている。これは決して比喩やたとえではない。ものの作り手にも、生み出されたものを喜ぶ受け手にも共有される感受性があるこそ、ものはその文化の中で育まれ成長する。まさに美意識こそものづくりを継続していくための不断の資源である。しかし一般的にはそう思われていない。資源といえば、まずは物質的な天然資源のことを指す。【I】

E 日本は天然資源に恵まれないので、工業製品を生み出すために高度な「技術」を磨いてきたと言われる。戦後の高度経済成長は、そのような構図でものづくりを進めてきた成果である。世界はそう認識しているし、日本人もそう思ってきた。戦後の日本が得意とした工業生産は「規格大量生産」、つまり均一にたくさん製品を作ることとをきわめて安定した水準で達成することであった。また、製品を小型化する凝縮力のようなものがそこに働いて、日本の工業製品の優位をより⑥センメイに示すことに成功した。日本の生産技術は、量を前提とした品質と、緻密さや凝縮性を工業製品として体現した結果、世界からの高い信用を獲得したので。【II】

しかしながら、ここで言う「技術」とは、言い換えれば繊細、丁寧、緻密、簡潔にもものづくりを遂行することであり、それは感覚資源が適切に作用した結果、獲得できた技の洗練ではないか。つまり、今日において空港の床が清潔に磨きあげられていたり、都市の夜景をなす灯りのひとつひとつが確実に光を放つことの背景にある同じ感受性が、規格大量生産においても働いていたのではないかと考えられる。【III】

日本は石油や鉄鉱石のような天然資源に乏しい。これは事実で、この事実が歴史の重要な局面でこの国の方針に大きく影響し、第二次大戦に日本が歩みを進めてしまった要因のひとつもここにある。

しかし、今日においては、天然資源の確保に※汲々としてきたことがむしろプラスに転じはじめている。もしも日本に石油が豊富に湧き出ていたら、おそらくは環境や省エネルギーに対する意識は今日ほどには高まっていなかったはずだ。周囲を海に囲まれ、その大半が山であるという恵まれた自然も、湧き出る石油や排ガスによって後戻りできないほどにぼろぼろに⑦オセンされていたかもしれないし、地球温暖化をもたらす温室効果ガスの排出量規制について、京都で国際会議を主宰する主体性も持ち得ていなかっただろう。むしろ、日本の石油消費や二酸化炭素の排出を抑制すべく、中国やアメリカが必死で説得するような事態を迎えていたかもしれない。マネーという富はもつと巨大にこの国に蓄えられ、医療も、教育も、通信も、全て無料で国が提供するような裕福な国になっていたかもしれないが、その豊かさは、やがて訪れる次の時代に対応できず、悲惨な⑧スイタイを運命づけられていたかもしれない。【IV】

F 幸いなことに、日本には天然資源がない。そしてこの国を⑨ハンエイさせてきた資源は別のところにある。それは繊細、丁寧、緻密、簡潔にもや環境をしつらえる知恵であり感性である。天然資源は今日、その流動性が保障されている世界においては買うことができず。オーストラリアのアルミニウムも、ロシアの石油も、お金を払えば買えるのだ。しかし文化の根底で育まれてきた*はお金で買うことはできない。求められても輸出できない価値なのである。

(原研哉 『日本のデザイン——美意識がつくる未来』)

※（文中のことばの意味）

痕跡…：以前に物事が行われ、また存在したことが残っているしるし。

高揚感…：気持ちが高ぶり、興奮した感覚。

感慨…：物事を感じてしみじみとした気持ちになること。身にしみて感じること。

夥しい…：非常に多い。

篤実…：情が深く、誠実なこと。

気質…：その身分や職業などに特有な、気風や性格。

高邁…：気高く、優れていること。

暗黙裡…：口に出して言わないまでも。暗黙のうちに。

汲々として…：小さなことにあくせくして、ゆとりのないさま。

問 1 線①～④のカタカナを漢字に直しなさい。

解答番号は裏面の

① 「キボ」 101

② 「センメイ」 102

③ 「オセン」 103

④ 「スイタイ」 104

⑤ 「ハンエイ」 105

問 2 次の一文が入る最も適当な箇所を、あとの①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は

1

高度な生産技術やハイテクノロジーを走らせる技術の、まさに先端を作る資源が美意識であるという根拠はここにある。

- ④ ③ ② ①
【Ⅳ】 【Ⅲ】 【Ⅱ】 【Ⅰ】

問3 ———線A「うるさ方の意見は百出するけれども、同意し

てくれる人は案外と少ない」とありますが、その内容の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 2

- ① 声を大にして自分の意見にこだわる人は多くいるが、どの意見もその信憑性^{しんぴやう}は根拠に乏しいということ。
- ② 何事にも口を出し異論を唱える人の意見は多くあるが、筆者の意見と同じ人は意外にも少ないということ。
- ③ 口うるさい人の意見は世間にはたくさんあるが、その意見も時として正しいことがあるということ。
- ④ さほど確信がない意見にも同調する人は多くいるが、筆者の意見もその程度のものであるということ。

問4 ———線B「我が意を得た思いがした」とありますが、その内容の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 3

- ① 今の東京の夜景は世界で一番美しいという自身の感想に対して、世界の夜景に精通しているパイロットの言葉を借りても、日本人の美をしつらえる最善の努力を知ってもらいたいということ。
- ② 今の東京の夜景は世界で一番美しいという自身の感慨深さは、自分勝手な思いつきではなく、世界の夜景を知り尽くしたパイロットの言葉に表れている真意あつての思いであるということ。
- ③ 今の東京の夜景は世界で一番美しいという自身の感想に、同意してくれない人が多くいることを知りながらも、世界の夜景に魅了されたパイロットの言葉を味方に、自国の都市文化を自慢したいということ。
- ④ 今の東京の夜景は世界で一番美しいという自身の思いが、世界の空を飛び回るパイロットの説得力ある言葉によって、決して自分勝手な思い過ぎではないということがわかったということ。

問5 ———線C「このあたりに僕はひとつの確信を持つ」とありますが、「ひとつの確信」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 4

- ① 日本人の、常識として根底に持つ他国の人々にはみられない価値観。
- ② 日本人の、仕事における効率や品質向上に努めようとする職人氣質。
- ③ 日本人の、日常親しんでいる環境に応じて高い能力を発揮しようとする専門性。
- ④ 日本人の、地理的条件による乏しい資源を補おうとする高い技術力。

問6 ———線D「美意識とはそのような文化のありようではないか」とありますが、その内容の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 5

- ① 美意識とは、日本独自の繊細さや緻密さにより生み出されるものであり、海外では模倣できない技術の賜物たまものである。
- ② 美意識とは、限られた分野の人々の専門技術により社会全体に影響を及ぼす芸術性が生み出すものである。
- ③ 美意識とは、日常空間を丁寧に整えようとする意識が社会全体で共有化されることによって成り立つものである。
- ④ 美意識とは、いかに効率性や品質を向上させるかによって社会の文化として決定されるものである。

問7 ———線E「日本は天然資源に恵まれないので、工業製品を生み出すために高度な『技術』を磨いてきた」とありますが、そのような環境がもたらした結果として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 6

- ① 高度な技術を武器に戦後の日本は経済成長に成功し、日本が生産する工業製品の優位性が世界に誇れるものとして知名度を上げるようになった。
- ② 日本は戦後、先進国から高度な技術を輸入し、工業製品の質の向上を目指し「規格大量生産」に重点を置くことで、経済大国の仲間入りを果たすことができた。
- ③ 高度な技術を獲得したことによって、日本人の生活水準に変化が生じ、文化に対してより美しいものを追求する意識が強まるようになった。
- ④ 天然資源の乏しさを補うべく技術を向上させることで、恵まれた自然を破壊することなく、国家として幸福な状況を維持することができるようになった。

問8 線F「幸いなことに、日本には天然資源がない」とありますが、「幸い」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 7

- ① 自然が生み出す資源がないことによる技術革新が、現在の日本の国土を維持しているということ。
- ② 物質的な天然資源がないことで、かえって美意識に反映される感受性が磨かれたということ。
- ③ 天然資源を輸出することで得られる富の代わりに、社会全体で共有可能な文化を創造できたということ。
- ④ 物質的豊かさを捨ててまでも、自国の文化を継承しようとする共通認識が定着したということ。

問9 *に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 8

- ① 職人氣質
- ② 美意識
- ③ 天然資源
- ④ 感覚資源

問10 本文の内容に合致するものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 9

- ① 日本の夜景は、高速道路を照らす灯りがかもし出す雰囲気と、車窓から見える高層ビルの数多くの灯りとが重なり合うことよって、その美しさをいっそう際立たせている。
- ② ありふれた日常の中で身の回りの環境を丁寧に整えようとする日本人の繊細な意識が、社会全体の中での常識として、ものづくりに必要な資源としての美意識を生み出している。
- ③ 日本人と他国の人々との違いが著しく表れている特性は、仕事に対する時間認識とその緻密さにあり、日本は世界の中で最も効率性を求めようとする傾向が強い。
- ④ 資源が少ない日本は、戦後を機に技術力を高めることで近代化を押し進めることに成功したが、そのことがかえって歴史的に不幸な時代へと導くことになった。

第2問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

インターネット上に自身の日常について文章を書くことを趣味とする「僕（悟）^{さとる}」には、優^{ゆう}という弟がいる。家族を置いて家を飛び出し行方不明になっていた父親から、ある日、住所を教える連絡が優に来る。他の家族に隠している住所を自分だけに教えてきたのは、父が自分を甘く見ているからだと言はれる。優は怒る。以下の文章は、これに続く場面である。

今僕は優の気持ちに同調するような態度を取っているけれども、もちろん彼のように怒っているのではなく、その殺害を止めるのが目的である。そして、出来れば暴力沙汰^{ざた}にもしたくない。なんとか上手^{うま}く間に入って、彼が父親に **X** をあげないで会話が出来るように済ませたかった。

助手席に座って、シートベルトをつけようとすると、手に硬いものが触れた。引っ張り出してみると、それは家に置いてあったはずの木刀である。僕は苦い顔をして、もとの場所に戻す。

優は車を発進させる。父のアパートまで、十五分ほどだと言う。

(中略)

優が言ったより早く、十分ほどでそのアパートに到着する。そのアパートは新しくも古くもなく、階段の前にはアニメのキャラクターがプリントされた三輪車などが置いてある。いかにも平和的な建物であり、あの父親が隠れ住むには不似合いな印象だった。

優は裏の駐車場に車を停めると、そのまますぐに建物には行かず、端に停めてあった一台のバイクの前で立ち止まる。

「これ、あいつが買ったバイクだよ」

見るのは初めてであったが、話は聞いている。^a年甲斐もなくバイクを新車で購入し、気分良さそうに乗り回している、と、^崇も母親も憎々しげに言っていた。

僕はバイクには詳しくないのでよくわからなかったが、確かに、その大きめのアメリカンバイクは、まっとうな大人が乗るには派手なようにも思う。

「こんなものに乗りがあって」

優は吐き捨てるように言うと、ハンドルのあたりに手をかけた。何をするのかと思えば、どうも素手で破壊を試みているようで、さすがの彼の[※]膂力^{りよく}でもハンドルをもぎり取ることは出来なかったが、かわりにいくつかの金属パーツを引きちぎって、路上に投げ捨てる。その時怪我^{けが}をしてしまったらしく、血みどろになった手を、ゴシゴシと自分のTシャツにこすりつけた。

^b我が弟ながら恐ろしいやつであるなあと、ぽかんとしている僕を尻目に、

「こっちだよ」

優はアパートに向かって歩き始める。

そして彼が案内したのは、103号室の、ドアの前であった。

確かに表札には、^A父親の、つまり僕らの名字が油性ペンで書き込まれている。

優は緊張した面持ちで、ごくりと唾^{つば}を飲み込んでから、血に濡れた人差し指でインターフォンを押した。

確かにインターフォンのベルがドアの向こうで鳴り響いた筈だが、何の反応もない。少し待って、もう一度スイッチを押すと、ようやく物音がして、

『はい』

と、紛れもない父の声がスピーカーから流れ出す。

「優だけだ」

優がそう名乗ると、相手は明らかに動揺した声で、

『何の用だ？』

「話があつて来たんだ。開けてくれない？」

優の声は * で震えている。

『一人で来たのか？』

そこで優は僕を振り返ったので、目配せをする。

「悟君と一緒に来た」

『そうか。……お父さんは出られない。用件があるなら、そこで言つてくれ』

父親は僕を警戒しているからそういう言葉になったのだろう。優一人だったら、開けていたのかもしれない。それは間違いなく、優を見くびっているからだ。舐めくさっているからだ。

優もそれを察したのか、若干興奮して、

「なんで開けられないんだよ！ それくらいしたっていいだろ！」

インターフォンに向かって叫ぶが、スピーカーからは、プツリと通話の切れる音が帰って来るだけだった。

「こんなに情けないとは思わなかった」

何度インターフォンを鳴らしても通話をしようとしないうちに、優はそうため息をもらす。まさか会うことまで拒否されるとは想定しなかつたらしく、動揺が見て取れた。

「どうして話も出来ないんだ？ 何か理由があるなら、ちゃんと言えばいいのに」

「本人も、後ろめたいのはわかっているんだらう」

B 思いの外に意気消沈をしている優を見ながら、これならもう暴力を振るうこともなさそうだと、内心で安堵のため息をつきつつ僕は言った。

「昔はあんなじゃなかったのに」

優がもう一度ため息をつき、僕も、かつての強く自信にあふれて

いた父親を思い出した。

夜遅く、いつまでもこんなところで二人で突っ立って居ても仕方がない。引き上げようかと、僕が提案しかけたところで携帯電話がなった。相手は、母親である。

『いま、お父さんのところに行っているの？』

「そうだけど、どうして知ってるの？」

『さっき、お父さんから電話があつてね。悟と優が家に押し付けてきたけど、お前がやらせたのかつて、お母さんに言ってきたの』

「は？」

『お母さんが指図をして、けしかけたんじゃないかって。どうしてそんなこと言うんだらう？ そんなことするわけないし、二人とも言つたつて言うことを聞く子供じゃないのにねえ』

「ふざけやがって、馬鹿にしてやがる」

C 僕は目眩がするほどに腹が立った。

優は、彼なりに父親への強い ※愛憎があつて、そしてその結果としてここにやって来たのだ。殺す殺すと言つてたけれども、やはり本人の口から、言い訳なり説明なりを聞きたかつたというのが本当のところなのだろう。今回の一連の出来事のなかでも、まだ父親に期待する部分があつて、それにすがろうとしたんじゃないか。

なのに、その対話を避けた上に、母親の操り人形になっていると、どうしてそんなことが言えるのだから？ どうして、そんなに自然に相手の人間性を無視出来るのだから？

人を ※愚弄するにもほどがある。それじゃ、いくらなんでも優が可哀想だ。こいつは、僕と違って、今まですつと父親のことが好きだったというのに。

『それでね、すぐに帰るように言えつて言うの。じゃないと、警察を呼ぶつて。ねえ、乱暴なことほしないで、すぐに……』

僕は母親の言葉を最後まで待たずに通話を切ると、父親の部屋のドアに向き直つた。

(中略)

その時僕が脳裏に思い描いていたのは、映画やドラマに出て来る、借金とりの※チンピラである。あのいかにも醜悪しゆうあくで安っぽい態度を参考にしながら、ドアをガンガンと蹴り、叫んでいると、音は深夜の鉄筋コンクリートに反響した。こんな振る舞いをするのは初めてで、一回やって見たかったので、楽しかった。

そうした僕の行動はよほど派手派手しいものになってしまったらしく、優はすっかり驚いて、きよろきよろと付近の様子をうかがっている。

確かに自分でもあまりにも突拍子もない行動だとは思いますが、止めに来た僕がこんな暴力的な行動をしているのもどうかとは思いますが、これは性分なのだ。

「おい、やめる。警察を呼ぶぞ」

暫くしばらそうやってしていると、部屋のなかで怯えた亀のようにYを殺しているのに耐えかねたのか、父親がドア越しにそう訴えかけて来る。

「言いたいことがあるなら、面と向かって言えよ。息子と直接話す勇氣もないなら、黙ってろ」

そう返すと黙ってしまったので、その後も何度か叫び、ドアを蹴った。そして、父親はともかく、付近の住人の通報もあるかもしれないので、D頃合いを見てその場所を後にした。

自分の部屋に帰ると、疲れていたが自分のサイトを更新してから、寝た。やっぱりサイトに文章を書くのはこの世で一番楽しい。父親のアパートのドアを蹴るよりも楽しい。

(唐辺葉介 『電気サーカス』)

※(文中のことばの意味)

崇：「僕」の弟で、三男。「僕」が長男で、優は次男である。

膂力：腕の力。優は、普段から身体を鍛えている。

愛憎：愛情とにくしみ。

愚弄：人を馬鹿にしてからかうこと。

チンピラ：暴力的な言動によって、他者をおどすような人物。

問1 〓線㉔㉕の意味として最も適当なものを、あとの①

㉔㉕のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は 10 ㉔ 12 ㉕

㉔ 「年甲斐もなく」 10

- ① 年齢にふさわしくなく
- ② 年月を重ねることなく
- ③ 長年言い続けた成果がなく
- ④ 年齢が分かるような目安がなく

㉕ 「尻目に」 11

- ① 後ろを振り向きつつ
- ② 少し見るだけで気にせず
- ③ 常に意識しながら
- ④ 後ろの方に回り込んで

㉕ 「突拍子もない」 12

- ① 調子はずれだとは言えない
- ② とんでもなく調子はずれである
- ③ 予測することが不可能である
- ④ 急すぎるとまではないかない

問2 〓X・Yに入る語として最も適当なものを、次の①㉔のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は 空欄X 13 ・ 空欄Y 14

- ① 汗
- ② 息
- ③ 声
- ④ 手
- ⑤ 腕

問3 〓線A「父親の、つまり僕らの名字が油性ペンで書き

込まれている」とありますが、この表現の説明として最も適当なものを、次の①㉔のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 15

- ① 「僕ら」の名字が油性ペンで乱暴に書かれていることで、父親が「僕ら」家族を馬鹿にしていることが示されている。
- ② 父親が家から離れても元の名字を使用していることで、父親と「僕ら」の心がつながっていることが示されている。
- ③ 父親と「僕ら」がはっきり区別されることで、「僕」の気持ちさが父親から離れていることが示されている。
- ④ 表札の文字を父の書いたものだと判断していることで、「僕」が父親を深く理解していることが示されている。

問4 * に入る語として最も適当なものを、次の①～

④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 16

- ① 怒りと緊張
- ② 怒りと動揺
- ③ 緊張と安堵
- ④ 安堵と動揺

問5 —線B「思いの外に意気消沈ほがをしている」とありますが、その理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから

一つ選びなさい。解答番号は 17

- ① 兄と一緒にやつとの思いで父親の元へたどり着いたというのに、父親に見くびるような対応をされたから。
- ② 父親が家族を捨て家を出て行ったことに何の理由もないのではないかという不安が、確信に変わったから。
- ③ ドアを開けることを拒否されてしまい、家族を捨てた父親に対し仕返しができなくなってしまったから。
- ④ 父親を信じる気持ちから事情を聞きかかったのに、話をすることすら断られてしまったから。

問6 —線C「僕は目眩めまいがするほどに腹が立った」とありますが、「僕」の心情として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 18

- ① もう幼くない息子に命令したのではないかと母親を疑う父親の発言に、母親が馬鹿にされたと感じている。
- ② 「僕」本人の意志ではなく母親に操られた行動と見なしてきた父親の判断に、人間性を無視されたと感じている。
- ③ どれほどの想いおもでやって来たのかを考えようとしなない父親の態度に、優が可哀想だと感じている。
- ④ わざわざ訪ねたというのに直接会おうとせず母親を通して返事してきた父親の行動に、許せないと感じている。

問7 —線D「頃合いころあを見てその場所を後にした」とありますが、ここでの「僕」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 19

- ① 父親に対する怒りに冷静さを失ってしまい、自身の行動をコントロールできないでいる。
- ② 父親に対する怒りに冷静さを失いながらも、家族を大切に想う愛情は常に持ち続けている。
- ③ 父親に対する怒りに冷静さを失いながらも、周囲の様子や自分自身を観察しつつ行動している。
- ④ 父親に対する怒りに冷静さを失ってしまい、最初の目的を達成した喜びにひたっている。

問8 登場人物の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 20

- ① 父親に対して暴力的な態度や行動を取ってしまったものの、実際に対面すると声が震えてしまったり、要求を通せず言いなりになってしまったりしたように、優はおだやかで優しい性格をしている。
- ② 夫が家を飛び出して別居という状態になってしまっているものの、夫に詰め寄る息子たちに同行しなかったり、夫からの電話に息子たちをなだめようとしていたりしたように、母親は夫に対し怒りや恨みの感情を持っていない。
- ③ 理由も説明せずに家族を置いて家を出て行きはしたものの、優にだけは住所を教えたり、母親には電話で連絡を取っていたりしたように、父親は「僕」以外の家族には友好的に接している。
- ④ 父親の不誠実な言動に怒りはしたものの、弟の暴力的な行動を心配して同行したはずが逆に問題を大きくしたり、派手な行動やサイトの更新を楽しんでいたりに、「僕」は父親の問題に対しあまり関心を持っていない。

問題は次のページに続きます。

第3問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、^A唐にありける僧の、^B天竺に渡りて、[※]他事にあらず、[※]ただ物のゆかしければ、[※]物見にしありきければ、所々見行きけり。ある[※]片山に大きな穴あり。牛のありけるがこの穴に入りけるを見て、ゆかしく覚えければ、牛の行くにつきて、僧も入りけり。はるかに行き、明き所へ出でぬ。見まはせば、[※]あらぬ世界と覚えて、見も知らぬ花の色^Cいみじきが咲き乱れたり。牛この花を食ひけり。試みにこの花を一房取りて食ひたりければ、うまさ事、[※]天の甘露も[※]かくあらんと覚えて、[※]めでたかりけるままに多く食ひたりければ、ただ肥えに肥え太りけり。[※]心得ず恐ろしく思ひて、[※]ありつる穴の方へ帰り行くに、初めはやすく通りつる穴、身の太くなりて狭く覚えて、やうやうとして穴の口までは出でたれども、[※]え出でずして、堪へがたき事限りなし。前を通る人に、「これ助けよ」と呼ばはりけれども、耳に聞き入る人もなし。助くる人もなかりけり。人の目にも何と見えけるやらん、^D不思議なり。日比重なりて死にぬ。後は石になりて、穴の口に頭をさし出だしたるやうにてなんありける。

(『宇治拾遺物語』)

※(文中のことばの意味)

他事にあらず…特別の目当てはなく。
ただ物のゆかしければ…ただいろいろなものを見たり聞いたりしたかったので。
物見にしありきければ…見物して歩きまわり。
片山に…山の片側に。
あらぬ世界…人間世界とは別の世界。
天の甘露…とびきり美味な不老不死の薬液で、一度これを服すると、飢えや苦をも忘れるとされていた。
かくあらん…このようである。
めでたかりけるままに…すばらしい味だったので。
心得ず…どうもわけが分からず。
ありつる…先ほどの。
え出でずして…穴の外へ出ることはできずに。

問1 線A「唐」・B「天竺」とありますが、今の国名として適当なものを、次の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は A 21 ・ B 22

- ① アメリカ
- ② インド
- ③ 中国
- ④ エジプト

問2 線C「いみじきが咲き乱れたり」の意味として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 23

- ① めずらしい花が咲き乱れている
- ② 恐ろしい花が咲き乱れている
- ③ すばらしい花が咲き乱れている
- ④ あやしい花が咲き乱れている

問3 線D「不思議なり」とありますが、何が「不思議」なのですか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 24

- ① 花がおいしかったこと。
- ② 花を食べて肥えたこと。
- ③ 穴から出られなくなったこと。
- ④ 前を通る人が気づかなかったこと。

問4 本文の内容に合致しないものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 25

- ① 僧の異国への興味は強いものであった。
- ② 僧の肥満化は食べるほどに進行した。
- ③ 僧の好奇心はかえって命取りとなった。
- ④ 僧の行為は人々から称賛された。

これで問題は終わります。